

世界遺産アカデミー認定講師 File No.41

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第41回目は、神奈川県在住の仲田 政一さんです。仲田さんは長年の海外出張やヨーロッパの世界遺産巡りなどの経験も活かしながら、自治体の生涯学習指導者や介護相談員として活動されています。今回は、仲田さんに、世界遺産を通しての学び、地元地域根ざした教育の大切さについて、語っていただきました。

——新しい気づきを与えてくれる 世界遺産

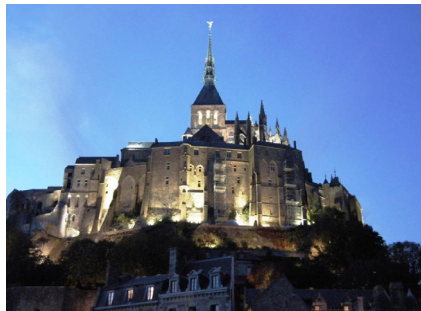
世界遺産と私の出会いは18歳、韓国へ初めてのひとり旅に出た時でした。ソウルから慶州をバスで巡り、日本とは異なる文化や歴史に触れました。早朝訪れた「石窟庵」では洞窟内に差し込む朝日に輝く釈迦如来坐像に息を呑み、「仏国寺」は1592年に焼失したとは思えない優雅さを伝えていました。神奈川県逗子市で生まれ、歩いて行ける鎌倉の寺社に慣れ親しんでいる私ですが、日本と同じく仏教文化圏のお隣、韓国でさえ、建築や様式の違いがある、その多様性に驚きました。企業に就職してからも仕事で韓国に3年、中国に3年、さらに中欧・チェコ共和国のプラハにも3年通いましたので、異文化に触れる機会は多く、世界遺産も身近な存在でした。そのような中、友人が世界遺産検定3級を受検すると言い、半ば巻き込まれるように引っ張り込まれました。共に1級まで進みましたが、その後、友人は「後は任せた!」とフォローに回り、そのおかげもあって、私はマイスター合格、そして、WHA認定講師となりました。この友人とは、今でも全世界遺産を地域別にテーマを決め、調べ、発表し合っています。

世界遺産は、モノの見方を変え、歴史や文化を深く知るきっかけとなります。私の経験を例に挙げますと、プラハ出張では、チェコの歴史や文化を通して、その土地に暮らす人々を理解できたことで、チェコの魅力が倍増しました。この、ひと手間かけた学習が大切で、得られる満足度が変わります。韓国や中国、中欧の異文化に触れて実感したのは、どの国も他国との関わり合い無しに歴史を語れない、ということ。島国の日本でさえ、弥生時代から鉄の輸入が始まり、遣隋使・遣唐使などの対外交渉があり、明治政府は海外に積極的な目を向けていました。言うまでもなく、ヨーロッパでは他国との交わりによって、その文化が熟成



カレル橋から臨むプラハ城
カレル橋には聖フランシスコ・ザビエルの像があります。

されました。同様に、世界遺産を通して世界を理解することで視野が広くなり、人類の歩みを学ぶこともできます。また、世界遺産は、生涯探求するテーマが限り無いことも、教えてくれます。世界遺産を知るほど、学習の幅は広がり、自分の知らないことが果てしなく在ると気づかされます。一度訪れているはずなのに、二度、三度目の訪問でも、新たな発見があるのです。『モン・サン・ミシェルとその湾』は、4回も行きました(笑)。最初はパリからの日帰り、二度目は島内に宿泊し、三度目は島外に宿泊、そして、四度目は干満差15mが体験したくて……。それぞれ気づきもあり、巡礼者の想いもお裾分けしてもらえたようにも感じます。



モン・サン・ミシェル
その圧倒的美しさは西洋の財産です。

もっと注目されるべきは、ポルトガルの世界遺産だと思います。ポルトガルは大航海時代の幕を開けた重要な国であり、日本史には欠かすことができません。1543年、東シナ海を航海していた中国船が嵐で種子島に漂着し、鉄砲が伝来。その後もキャラメルやカステラ、コンペイトウなど、日本に馴染みのある食材や調理方法がもたらされました。諸外国の世界遺産をそれぞれ「点から線」で繋いで、日本史と関連づけながら「面」で学習すると、より興味深くなります。

ポルトガルには、17件の世界遺産があります(2021年現在)。『リスボンのジェロニモス修道院とベレンの塔』の「ジェロニモス修道院」はマヌエル様式の傑作と称され、テージョ川には航海を監視する要塞「ベレンの塔」が目見えます。街全体が『シントラの文化的景観』として登録されているシントラには、アラブの面影が遺されています。シントラの西約10Kmに在る、ユーラシア大陸最西端の「ロカ岬」では、塔に記された「ここに地終わり、海始まる」という詩に心打たれ、ナザレから約40分の『バターリャ修道院』では、スペイン戦の歴史に想いを馳せます。そして、『ポルトの歴史地区』はポルトガル発祥の地であり、ローマ

時代からのイスラム文化、フランスの歴史が刻まれています。私が訪れたのは、2009年6月。ナザレの砂浜から海を眺め、海岸沿いのレストランでイワシの塩焼きを食べ、打ち寄せる波に耳を傾けました。旅情溢れる異国でありながら、素朴でどこか懐かしい、故郷の風を感じました。



テージョ河岸に建つ「発見のモニュメント」
エンリケ航海王子が大海原の先に見たものは……。

——“学ぶ喜び”を伝える 認定講師として

自治体の生涯学習指導者に登録しており、昨年2020年11月は、地域の文化会館主催で『世界遺産の基礎知識講座』を開催しました。世界遺産の意義を説明する中で、「危機遺産や負の遺産をもっと知りたい」という声がありました。引き続き、地域に密着した文化財や遺跡の大切さを、世界遺産を通して伝えていきたいです。社会教育委員と生涯学習推進会議委員の経験もありますので、小・中学校での基礎的な講座も開ければ、と思っています。具体的には、修学旅行で訪れる日光や京都・奈良を世界遺産の視点から学んで、歴史的建造物や現地の空気から感じる漠然とした何かを、確かなものとして、得ていただきたいのです。また、介護相談員も受嘱し、“介護福祉と世界遺産の可能性に挑戦”が新たな課題となりました。コロナ禍が続く影響で、どの自治体も対面講座からオンライン講座へと移行しています。これからも、認定講師として、“学ぶ喜び”を伝えていきたいです。そして、ライフワークとして30年前から始めた、年1回のヨーロッパ諸国巡りも3周目に突入しました。ヨーロッパの文化や歴史、建築様式や生活スタイルは居心地良く、世界情勢が許す限り、現地の世界遺産を訪問し続けたいと願っています。ヨーロッパの異文化や世界遺産を伝えることで、皆さんに、日本の良さを再発見して、故郷愛を深めていただけると、嬉しいです。